

# 中川素子先生のご退職にあたって

久保村 里正

2013年3月をもって美術研究室の中川素子先生が、定年により本学を退職されることになりました。つきましては研究室を代表して、中川先生のご経歴を簡単に、ご紹介させていただきます。

中川先生は東京藝術大学美術学部芸術学科を卒業後、1969年に東京藝術大学美術研究科に進学し、修了制作では「興福寺五部浄像脱乾漆復元想定像」を制作し、優秀な作品として評価され芸術資料館の買い上げとなりました。そして修了と同年に、立正女子大学の助手として採用され、その後、44年もの長きにわたって本学の教鞭をとられました。

先生が文教大学で専門として教えていたのは、主に美術史および美術理論の領域ですが、研究の面では先生の興味はそれだけの範疇に留まらず、現代美術評論や絵本論など幅広い領域でご活躍され、その分野では先駆的な研究者として知られています。また先生は非常に多作な方でもあり、著書、論文、評論、講演など、その全てを述べようとすると、この少ない誌面ではとても書ききれない程です。代表的なものだけでも、ご紹介させていただきますと『絵本はアート ひらかれた絵本論をめざして』（教育出版センター）、『本の美術誌 聖書からマルチメディアまで』（工作舎）、『エイラトさんのへんしんどうぶつえん』（偕成社）、『絵本は小さな美術館』（平凡社）、『モナリザは妊娠中？ 出産の美術誌』（平凡社）、『スクール・アート 現代美術が開示した学校・教育・社会』（水声社）など、教養的なものから専門的なものまで幅広く揃っており、その中でも『絵本はアート ひらかれた絵本論をめざして』は、1992年には日本児童文学学会奨励賞を受賞し、研究者の中でも高い評価を受けています。

また先生のご活躍は、この様な個人の研究だけではなく、絵本学の振興のため絵本学会設立に尽力されており、形の文化会の幹事、絵本学会会長などを学会の要職も務めるなど、学界の発展にも貢献されてきました。

この様に中川先生は幅広くご活躍されている著名な研究者であります。文教大学の中では、その気取らない人柄のため、学生から親しみをもって「素子先生」と呼ばれ、慕われています。また文教大学で長くご指導されてきた積み重ねから、数多くの卒業生と交流をもっており、機会をとらえて先生を訪ねてくる卒業生が後を絶えません。

3月をもって中川先生は、ご退職され文教大を離れますが、常に忙しく活動されている方なので定年後も、「ごゆっくり」といったことはなく、これからも先生のご活躍を耳にするのではないかと密かに期待しております。

中川先生は44年の長い間、教育、研究、校務、社会貢献など、あらゆる面で文教大学の発展に寄与されてきました。そして定年を迎える今なお、文教大学、とりわけ美術専修の将来を案じており、共に働く私たちも身が引き締まる思いです。これから引き継いでいく私たちは、力不足ではありますが、これからもどうぞご指導お願いいたします。

(くぼむら りせい 文教大学教育学部学校教育課程美術専修主任)